

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：教育費 項：保健体育費 目：学校健康教育費

事業名 学校保健総合支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 体育健康課 学校保健係 電話番号：058-272-1111 (内 3593)

E-mail：c17769@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 800 千円 (前年度予算額：1,590 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,590	1,590	0	0	0	0	0	0	0
要求額	800	800	0	0	0	0	0	0	0
決定額	800	800	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・ 2人に1人が罹患するという「がん」については、小学校からの教育の必要性が問われている。また、学習指導要領の改訂により、中学校、高等学校におけるがん教育の充実が求められている。
- ・ がん教育の実施率は高いが、外部講師を活用した授業の実践は十分でないことが課題としてある。

(2) 事業内容

[がん教育]

- ・ がんについての正しい知識を習得するために、専門医等を講師とした研修会を開催する。
- ・ モデル校を指定し、外部講師を活用した授業の充実を図る。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・ 国委託事業

(4) 類似事業の有無

- ・ 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	505	専門医等派遣にかかる講師謝金、連絡協議会委員謝金
旅費	259	専門医等派遣にかかる講師旅費、連絡協議会委員旅費 国主催の研究協議会、指導者研修会等の参加業務にかかる旅費
需用費	13	事務用品等購入費、会議用お茶代
役務費	3	郵便料
使用料・賃借料	20	会場借り上げ料
合計	800	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第3次岐阜県教育ビジョン

基本方針3 未来を切り拓くための基礎となる力を育む教育の推進

目標17 健康教育・食育の推進

(2) 経緯

平成30年度までは、性に関する指導普及推進、薬物乱用防止教育支援、がん教育総合支援事業を実施。

文部科学省の委託内容変更により、令和3年度からは、がん教育総合支援事業のみ実施。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

<input type="checkbox"/> 新規要求事業
<input checked="" type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 関係者による「協議会」でがん教育の在り方について検討し、外部講師を活用した授業モデルを示すとともに、外部講師の講師派遣体制を構築する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 <small>（前々年度末時点）</small>	目 標	達成率
がん教育に関する講習会の開催回数	(H)	6回 (H30)	7回 (H31)	0回 (R2)	8回 (R3)	—
協議会の開催	(H)	2回 (H30)	2回 (H31)	2回 (R2)	2回 (R3)	100%

○指標を設定することができない場合の理由

（前年度の取組）

・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等）

- ・令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、指導者を対象とした研修会を実施できなかったが、モデル校での授業実践を2地区で実施し、3年計画であった県内全ての地域での実施を完了した。

【協議会の開催】

- ・2回開催（10月、2月） 参加者各14人

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

がん教育においては、モデル校の授業実践を通し、中学校、高等学校における授業モデルを作成することができた。また、その成果をホームページで公表し、周知を図ることができた。

今後は、各学校において授業モデルを参考に授業を実施していく。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	<p>がん教育については、がん対策推進基本計画や新学習指導要領の中に児童生徒に対するがん教育を推進することが明示された。外部講師を活用し、充実したがん教育の実施が求められている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	<p>がんの専門医やがん経験者と連携した授業実践を3年間実施してきた成果として、外部講師を活用した授業モデルの周知、講師派遣体制を構築した。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	<p>県内6地域で授業実践する際には、各地域にあるがん診療拠点病院に講師を依頼し、効率化を図っている。</p>

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 <p>学校での実践例がまだ少ないことから、モデル校での授業実践を継続し、各地域のがん教育の推進を支援していく。</p>

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか <p>がん教育は、生涯にわたって健康な生活を送る資質や能力を身に付けるために必要な教育であり、継続すべき事業である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	
組み合わせる理由や期待する効果 など	